

成長のカギは
技術にあり!

青森産技編

4

● 青森県農林水産部水産局

水産振興課

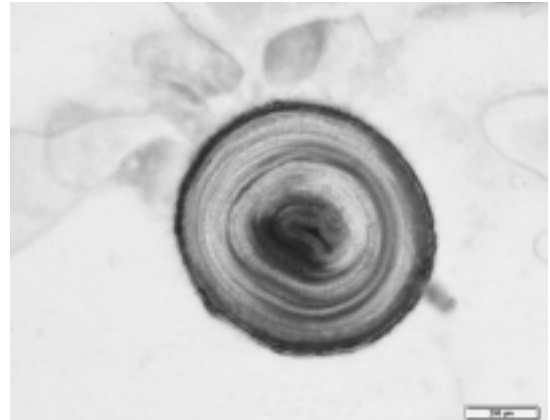
竹谷 裕平氏

キアンコウは、青森県津軽海峡沿岸において刺網漁業を中心に生きたまま漁獲されており、活玉による高鮮度保持処理や刺身を軸としたメニューで観光客をもてなす地域イベントなどを通じて、ブランド化が図られています。今年6月に大阪で開催されたG20の各国首脳の夕食会で「風間浦鰺鱈」が提供され、一躍有名になりました。

一方、漁獲量はピークであった2005年の974トから、18年には473トとおよそ半減しており、適切な資源管理手法の開発が急務とされています。

一般的に、魚類の資源評価を行う場合、年齢や雌雄別の成長速度といった生物

年齢査定に使われたキアンコウの「ちようちん」写真は18歳と推定



水揚げされて背ビレ第一棘を立てるキアンコウ



コホト解析と呼ばれる手法などを用いることで、これまでの資源量や、さまざまな資源管理手法の効果を推定できるようになりました。

「ちようちん」で年齢推定

低コストでキアンコウ資源評価

コウなどの単価が高い魚では、その問題は深刻です。

年齢の調べ方は、魚類では耳石と呼ばれる骨組織に刻まれた輪紋数を数える方法が一般的ですが、キアンコウの耳石は輪紋の形成が不規則で年齢を調べるのが困難でした。そこで、背ビレ第一棘と呼ばれる組織に着目して、資源評価に必要な年齢と性別を知るための技術を開発しました。

年齢を調べられることが分かりました。ちなみに、この輪紋はキアンコウの成長が停滞する時にできるもので、産卵が終わった夏と、水温が低くなる冬の年2回できます。

そこで、青森県水産総合研究所ではキアンコウの背ビレ第一棘(きよく)と呼ばれる組織、いわゆる「あんこうのちようちん」に着目して、資源評価に必要な年齢と性別を知るための技術を開発しました。

元を切断して、その横断面の輪紋数を数えることで、年齢を調べられることが分かりました。余談ですが、瘤状鼻管はメスよりもオスの方が大きいということも分かりました。広い海の中で、オスがメスを探すために大きくなたたかもしれません。

陰ながらこうした技術が青森県におけるキアンコウ漁業振興につながることを期待しています。また、国も水産政策改革の推進の一環として資源評価対象種を拡大することとしています。他魚種でもこうしたノウハウを活用することでその問題を解決できることがあるかもしれません。

計データを組み合わせ、掲載)

計データを組み合わせ、掲載)

計データを組み合わせ、掲載)